

様式 1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	一般国道231号 雄冬防災
事業主体	北海道開発局

●事業の効果や必要性の評価評価に対応する事後評価項目

政策目標	指 標 （対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは口を■に変更）	指標チェックの根拠	
1. 活力	円滑な モビリティの 確保	<input type="checkbox"/> 現道等の年間渋滞損失時間（人・時間）及び削減率	
		<input type="checkbox"/> 現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満であった区間の旅行速度の改善状況	
		<input type="checkbox"/> 現道又は並行区間等における踏切道の除却もしくは交通改善の状況	
		<input type="checkbox"/> 当該路線の整備によるバス路線の利便性向上の状況	
		<input type="checkbox"/> 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上の状況	
		<input type="checkbox"/> 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上の状況	
	物流効率化 の支援	<input type="checkbox"/> 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上の状況	
		● 農林水産業を主体とする地域から大都市圏への農林水産品の流通の利便性向上の状況	対象農林水産品：身欠きニシン、数の子（留萌市） 東京都中央卸売市場取扱金額シェア：身欠きニシン98%（北海道）、数の子51%（北海道） 迂回損失時間の解消：迂回時155分 ⇒ 通常時129分
		<input type="checkbox"/> 現道等における総重量25tの車両もしくはISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間が解消	
	都市の再生	<input type="checkbox"/> 都市再生プロジェクトの支援に関する効果	
		<input type="checkbox"/> 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路が形成（又は一部形成）されたことによる効果	
		<input type="checkbox"/> 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携に関する効果	
		<input type="checkbox"/> 中心市街地内で行われたことによる効果	
<input type="checkbox"/> 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km2以下である市街地内での事業である			
<input type="checkbox"/> DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上			
<input type="checkbox"/> 対象区間が事業実施前に連絡道路がなかった住宅地開発（300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上）への連絡道路となった			

1. 活力	国土・地域ネットワークの構築	<input type="checkbox"/> 高速自動車国道と並行する自専道（A'路線）としての位置づけあり	
		<input type="checkbox"/> 地域高規格道路の位置づけあり	
		<input type="checkbox"/> 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する（A'路線としての位置づけがある場合）	
		<input type="checkbox"/> 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	
		<input type="checkbox"/> 現道等における交通不能区間が解消	
		<input type="checkbox"/> 現道等における大型車のすれ違い困難区間が解消	
		<input type="radio"/> 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上の状況	
個性ある地域の形成	<input type="radio"/> 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されていた地区の一体的発展への寄与の状況		
	<input type="radio"/> 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントの支援に関する効果		
	<input type="radio"/> 主要な観光地へのアクセス向上による効果		
	<input type="radio"/> 新規整備の公共公益施設と直結されたことによる効果		
2. 暮らし	歩行者・自転車のための生活空間の形成	<input type="radio"/> 自転車利用空間が整備されたことによる当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性向上の状況	
		<input type="checkbox"/> 交通バリアフリー法に基づく重点整備地区における特定経路を形成する区間が新たにバリアフリー化された	
	無電柱化による美しい町並みの形成	<input type="checkbox"/> 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけあり	
		<input type="checkbox"/> 市街地又は歴史景観地区（歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区）等の幹線道路において新たに無電柱化を達成	
安全で安心できるくらしの確保	● 三次医療施設へのアクセス向上の状況	三次医療施設：手稲溪仁会病院、迂回損失時間の解消：迂回時113分 ⇒ 通常時77分	
3. 安全	安全な生活環境の確保	● 現道等における交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等による安全性向上の状況	現道区間事故率：25.8件/億台km ⇒ 1.7件/億台km
		<input type="radio"/> 歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置されたことによる安全性向上の状況	
	災害への備え	<input type="checkbox"/> 近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落が解消	
		■ 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業5ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり	第一次緊急輸送道路として位置づけあり
		<input type="checkbox"/> 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成	
		<input type="checkbox"/> 並行する高速ネットワークの代替路線として機能（A'路線としての位置づけがある場合）	
		■ 現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消	防災点検要対策箇所の解消：76箇所 ⇒ 0箇所
<input type="checkbox"/> 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間が解消			

4. 環境	地球環境の 保全	○ 対象道路の整備により、削減される自動車からのCO2排出量	
	生活環境の 改善・保全	○ 現道等における自動車からのNO2排出削減率	
		○ 現道等における自動車からのSPM排出削減率	
		○ 現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過していた区間の騒音レベルの改善の状況	
		○ その他、環境や景観上の効果	
5. その他	他のプロジェクト との関係	○ 関連する大規模道路事業との一体的整備の必要性または一体的整備による効果	
		○ 他機関との連携プログラムに関する効果	
	その他	○ その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果	

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BP・その他別
一般国道231号	雄冬防災	L=11.6Km	二次改築	B P

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
1,700~2,300	2	北海道開発局

① 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	令和2年度		
単純合計	610億円	-4.6億円	605億円
基準年における 現在価値(C)	1,046億円	-2.4億円	1,044億円

② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	令和2年度			
供用年	平成28年度			
単年便益 (初年便益)	3.7億円	0.80億円	0.07億円	4.6億円
基準年における 現在価値(B)	90億円	19億円	1.6億円	111億円

注)費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

交通状況の変化

事業名: 雄冬防災

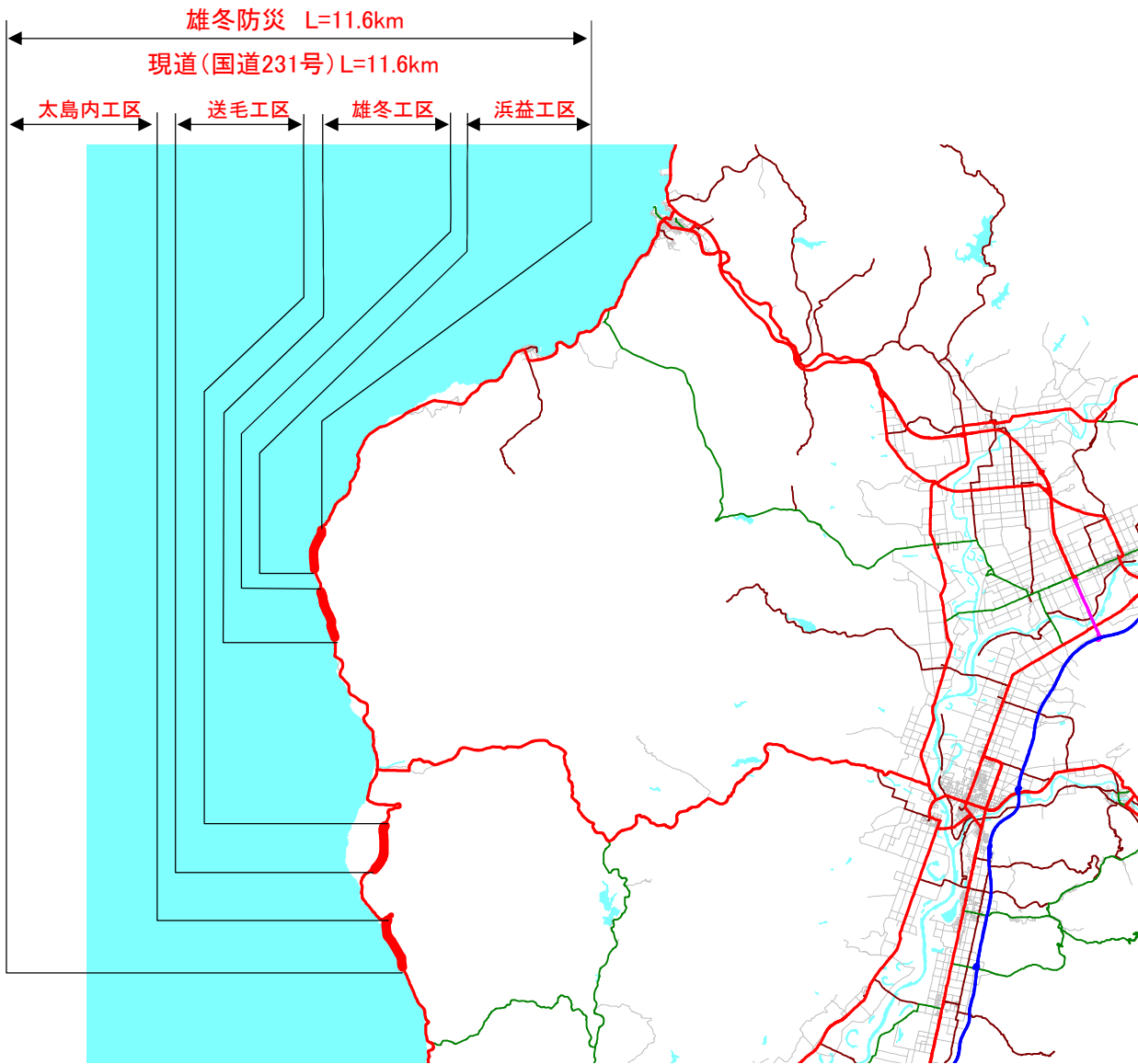
(推計時点 R12年)

			整備なし(A)	整備あり(B)
①新設・改築道路 [バイパス等] 11.6km	交通量	[台/日]	0	2,100
	走行時間	[分]	0.0	15.3
	走行時間費用	[億円/年]	0.00	6.38
②主な 周辺道路 11.6km 現道: 国道231号	交通量	[台/日]	1,900	0
	走行時間	[分]	19.4	0.0
	走行時間費用	[億円/年]	6.55	0.00
③その他道路合計 26,329.4km		走行時間費用 [億円/年]	18,432.67	18,429.28

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計: 26,352.6km	走行時間短縮便益	[億円/年]	18,439.22	18,435.66	3.56

事業名:雄冬防災

【 図面(①、②)に該当する道路を明示すること】



費用便益分析の条件

事業名: 雄冬防災

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成30年2月 国土交通省 道路局 都市局)	<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他	<input type="checkbox"/>	
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	令和2年	
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計	<input checked="" type="checkbox"/> (R12)
		複数時点での推計	<input type="checkbox"/>
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	<input checked="" type="checkbox"/>
		整備の有無のいずれかのみ推計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
		いずれかのみ推計の場合	いずれかのみ推計とした理由を記載
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	<input checked="" type="checkbox"/> (H22センサス)
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	<input type="checkbox"/>
		その他()	<input type="checkbox"/>
	開発交通量の考慮	無	<input checked="" type="checkbox"/>
		有	<input type="checkbox"/>
		有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数) ()台トリップ/日 考慮した理由を記載
	配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	<input type="checkbox"/>
転換率式を用いた配分		<input type="checkbox"/>	
Q-V式と転換率式の併用による配分		<input checked="" type="checkbox"/>	
均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)		<input type="checkbox"/>	
簡易手法		<input type="checkbox"/>	
簡易手法の採択理由		小規模事業である	<input type="checkbox"/>
		山間部海岸部で併行道路が少ない	<input type="checkbox"/>
		その他()	
簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)			
その他()	<input type="checkbox"/>		
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定	<input checked="" type="checkbox"/>	
	採用理由を記載	交通容量未滿・以上の路線が混在した配分結果となっているため、便益算出においては速度差の生ずる加重平均速度を用いた。	
	最終配分の速度	<input type="checkbox"/>	
	採用理由を記載		
その他()	<input type="checkbox"/>		

事業名: 雄冬防災

(3)

		項目	チェック欄	
便益の算定	休日交通の影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する	<input type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	面的に考慮	<input type="checkbox"/>
			対象路線のみ考慮	<input type="checkbox"/>
			採用した休日係数 ()%	
	休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載			
	災害等による通行止めの影響	考慮しない	<input type="checkbox"/>	
		考慮する	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	採用した通行止め日数 (47.5)日	
			採用した通行止め日数の考え方を記載	
			防災事業の対策により改善が見込まれる災害種別を起因とするS56~H14(22年間)の年平均通行止め日数として、47.5日/年と設定	
	とり止め交通を考慮する	<input type="checkbox"/>		
	とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載			
	冬期交通の影響	考慮しない	<input type="checkbox"/>	
		考慮する	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	採用した冬期日数 (127)日	
採用した冬期日数の考え方を記載				
当該地域の直近3カ年(平成29年~令和元年)における最低気温0℃以下かつ積雪1cm以上を満たす日数とし、127日と設定				
冬期の走行速度と交通容量の関係				
設定の考え方を記載				
Vmax、Vminについて低減				
交通流推計の時点以外の便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	<input checked="" type="checkbox"/>		
	その他 ()	<input type="checkbox"/>		
車種別時間価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>		
車種別走行経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>		
交通事故減少便益算定	中央分離帯の有無を考慮	<input type="checkbox"/>		
	中央分離帯の有無を考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
走行時間短縮・走行経費減少・交通事故減少以外の便益	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
	考慮する	<input type="checkbox"/>		
その他				

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 一般国道231号 雄冬防災

				単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)	
				-0.009	11.6	-0.10	
年次	年度	割引率	GDP デフレータ	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-22年目	H 6	2.7725	117.80	3.31	8.01		
-21年目	H 7	2.6658	117.10	3.93	9.20		
-20年目	H 8	2.5633	116.60	14.05	31.76		
-19年目	H 9	2.4647	117.50	14.56	31.39		
-18年目	H 10	2.3699	116.90	26.79	55.83		
-17年目	H 11	2.2788	115.20	34.01	69.16		
-16年目	H 12	2.1911	113.80	68.77	136.12		
-15年目	H 13	2.1068	112.40	88.34	170.22		
-14年目	H 14	2.0258	110.50	21.57	40.66		
-13年目	H 15	1.9479	109.00	14.83	27.24		
-12年目	H 16	1.8730	107.90	12.23	21.83		
-11年目	H 17	1.8009	106.70	27.40	47.55		
-10年目	H 18	1.7317	105.90	35.09	58.99		
- 9年目	H 19	1.6651	105.00	8.90	14.51		
- 8年目	H 20	1.6010	104.40	7.02	11.07		
- 7年目	H 21	1.5395	103.00	19.34	29.72		
- 6年目	H 22	1.4802	101.30	27.50	41.31		
- 5年目	H 23	1.4233	99.80	29.56	43.34		
- 4年目	H 24	1.3686	99.00	29.96	42.57		
- 3年目	H 25	1.3159	99.00	29.68	40.55		
- 2年目	H 26	1.2653	101.50	39.78	50.98		
- 1年目	H 27	1.2167	103.00	42.13	51.16		
供用開始年次	H 28	1.1699	102.80	6.21	7.27	-0.09	-0.11
1年目	H 29	1.1249	102.90	5.02	5.64	-0.09	-0.10
2年目	H 30	1.0816	102.80			-0.09	-0.10
3年目	R 1	1.0400	102.80			-0.09	-0.09
4年目	R 2	1.0000	102.80			-0.09	-0.09
5年目	R 3	0.9615	102.80			-0.09	-0.09
6年目	R 4	0.9246	102.80			-0.09	-0.08
7年目	R 5	0.8890	102.80			-0.09	-0.08
8年目	R 6	0.8548	102.80			-0.09	-0.08
9年目	R 7	0.8219	102.80			-0.09	-0.07
10年目	R 8	0.7903	102.80			-0.09	-0.07
11年目	R 9	0.7599	102.80			-0.09	-0.07
12年目	R 10	0.7307	102.80			-0.09	-0.07
13年目	R 11	0.7026	102.80			-0.09	-0.06
14年目	R 12	0.6756	102.80			-0.09	-0.06
15年目	R 13	0.6496	102.80			-0.09	-0.06
16年目	R 14	0.6246	102.80			-0.09	-0.06
17年目	R 15	0.6006	102.80			-0.09	-0.05
18年目	R 16	0.5775	102.80			-0.09	-0.05
19年目	R 17	0.5553	102.80			-0.09	-0.05
20年目	R 18	0.5339	102.80			-0.09	-0.05
21年目	R 19	0.5134	102.80			-0.09	-0.05
22年目	R 20	0.4936	102.80			-0.09	-0.04
23年目	R 21	0.4746	102.80			-0.09	-0.04
24年目	R 22	0.4564	102.80			-0.09	-0.04
25年目	R 23	0.4388	102.80			-0.09	-0.04
26年目	R 24	0.4220	102.80			-0.09	-0.04
27年目	R 25	0.4057	102.80			-0.09	-0.04
28年目	R 26	0.3901	102.80			-0.09	-0.04
29年目	R 27	0.3751	102.80			-0.09	-0.03
30年目	R 28	0.3607	102.80			-0.09	-0.03
31年目	R 29	0.3468	102.80			-0.09	-0.03
32年目	R 30	0.3335	102.80			-0.09	-0.03
33年目	R 31	0.3207	102.80			-0.09	-0.03
34年目	R 32	0.3083	102.80			-0.09	-0.03
35年目	R 33	0.2965	102.80			-0.09	-0.03
36年目	R 34	0.2851	102.80			-0.09	-0.03
37年目	R 35	0.2741	102.80			-0.09	-0.02
38年目	R 36	0.2636	102.80			-0.09	-0.02
39年目	R 37	0.2534	102.80			-0.09	-0.02
40年目	R 38	0.2437	102.80			-0.09	-0.02
41年目	R 39	0.2343	102.80			-0.09	-0.02
42年目	R 40	0.2253	102.80			-0.09	-0.02
43年目	R 41	0.2166	102.80			-0.09	-0.02
44年目	R 42	0.2083	102.80			-0.09	-0.02
45年目	R 43	0.2003	102.80			-0.09	-0.02
46年目	R 44	0.1926	102.80			-0.09	-0.02
47年目	R 45	0.1852	102.80			-0.09	-0.02
48年目	R 46	0.1780	102.80			-0.09	-0.02
49年目	R 47	0.1712	102.80	-0.30	-0.05	-0.09	-0.02
合計				609.70	1,046.02	-4.55	-2.38
単純事業費計				609.99		-4.55	

注1) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

